

## 地域公共交通確保維持改善事業に関する自己評価について

令和5年度地域公共交通確保維持改善事業の自己評価について、中部運輸局へ別紙のとおり報告します。

### ◇事業評価について

中津川市では、国土交通省の「地域公共交通確保維持改善事業」を活用して、公共交通の確保維持に取り組んでいます。国の地域公共交通確保改善事業による支援を受けた事業については、毎年度、公共交通会議自らによる事業の実施状況の確認、自己評価を行い、その結果を地方運輸局に報告することとされています。

### ◇事業期間

令和4年9月～令和5年10月

### ◇自己評価資料について

- ①自己評価（一次評価）作成様式                     ・・・別添1、別添1－2
- ②第三者評価委員作成様式                             ・・・中部様式

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月 日

協議会名: 中津川市公共交通会議
評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

Table with 6 columns: ①補助対象事業者等, ②事業概要, ③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況, ④事業実施の適切性, ⑤目標・効果達成状況, ⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む). Rows include details for various bus routes like 福岡地区, 坂下地区, 上野線, etc.

株式会社サカガワ	【坂下地区】 外洞線(上り)	A	運行は計画どおり適切に実施された。 【計画運行回数】 122回 【実績運行回数】 122回 【運行割合】 100%	B	【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(2021)以上とする。 目標/1,635人以上 実績/1,997人(達成率122.1%) 【考察・利用状況】 ・昨年度と比較し増加傾向にある。 ・児童生徒は下握バス停より乗車し、朝の登校の際に利用されている。	・沿線に住む小中学生の数により、毎年利用人数が変動する路線である。引き続きバスが利用されるよう推移を見守る。
株式会社サカガワ	【坂下地区】 外洞線(上り)(きりら坂下経由)	A	運行は計画どおり適切に実施された。 【計画運行回数】 73回 【実績運行回数】 73回 【運行割合】 100%	B	【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/1,635人以上 実績/296人(達成率18.1%) 【考察・利用状況】 ・高齢者などの日中の買い物のために利用されている。	・高齢者等が日中の買い物のために利用できる路線であり、R4.10から運行開始したもの。 ・目標値は従来の「外洞線(上り)」と同様にしていたため、今後は今回の実績を参考とし、推移を見守る。
株式会社サカガワ	【坂下地区】 外洞線(下り)(きりら坂下経由)	A	運行は計画どおり適切に実施された。 【計画運行回数】 73回 【実績運行回数】 73回 【運行割合】 100%	B	【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(2021)以上とする。 目標/261人以上 実績/176人(達成率67.4%) 【考察・利用状況】 ・駅前または診療所前から乗車する利用客が毎月一定数おり、定期的に利用されている。 ・毎日運行から月水金運行になったことで、利用者数が減ったと考える。	・地域からの要望を受け、道の駅、商業施設、病院近くに停車するようR4.10に運行ルートを変更した。 ・今回の実績を今後の参考とし、引き続きバスが利用されるよう推移を見守る。
株式会社サカガワ	【坂下地区】 西方寺・握・高部線	A	運行は計画どおり適切に実施された。 【計画運行回数】 196回 【実績運行回数】 194回 【運行割合】 98%	B	【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(2021)以上とする。 目標/404人以上 実績/207人(達成率51.2%) 【考察・利用状況】 ・毎日運行から火木運行になったことで、利用者数が減ったと考える。	・タクシー利用が多い時間帯に運行する便であることから、バス利用もできることを周知する必要がある。 ・今回の実績を今後の参考とし、引き続きバスが利用されるよう推移を見守る。

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和5年1月 日

協議会名:	中津川市公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>中津川市は岐阜県の東南端に位置し、山間部に集落が点在する中山間地域で豊かな自然と美しい景観に恵まれたまちです。市の東南部にJR中央線を有するが、中心地域以外は路線バスがほぼ唯一の交通手段となっています。しかしながら、自動車利用の増加に加え、人口減少や少子高齢化によって公共交通の利用者が減少していること、また運転手不足の影響により、交通事業者の経営努力だけでは公共交通網の維持が困難になりつつあります。</p> <p>地域の交通体系におけるマイカーの重要性を認識しながら、利便性が高い公共交通ネットワークを実現し、複数の交通機関が役割を分担し、誰もが行きたいときに行きたい場所に行ける持続可能な公共交通網の構築を目指します。</p>